

## 令和2年度 ホソカワ粉体工学振興財団 KONA 賞ならびに研究助成事業のご案内

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団

当財団は、粉体工学・技術の発展に資することを旨として、平成3年(1991年)に創設され、平成24年に公益法人に認定されました財団法人で、毎年、粉体工学に関する講演討論会の開催や、英文学術誌 KONA Powder and Particle Journal の出版などの事業を進めると共に、大学等の研究機関に所属されている方々を対象として主に下記のような内容の助成事業を行います。

1. 粉体工学に関する優れた研究業績に対する褒賞 (KONA 賞)
  2. 粉体工学に関する研究のための研究費助成
  3. 粉体工学に関する研究者育成のための援助
  4. 粉体工学に関する学会・シンポジウム等開催の援助
- これらの助成事業は、例年5月から募集を開始し、7月下旬に締め切れ、選考委員会での審査、理事会での承認を得て、12月に採択結果が発表されます。ご応募

には、所定の推薦書あるいは申請書の提出が必要です。

助成対象や申請方法、提出締切日等の募集要項の詳細につきましては、2020年4月頃に当財団のホームページ等で公開され、関連書類はご関係の学・協会、大学(学部、学科)、研究所等の事務所に5月中に発送の予定です。もしご所属の場所にて入手できない場合には、財団ホームページ内の下記の助成事業サイト

(<http://www.kona.or.jp/jp/grants/index.html>)

からダウンロードいただくか、または下記にご連絡下さい。

<推薦書・申請書の提出先および連絡先>

(公財)ホソカワ粉体工学振興財団 事務局

〒573-1132 大阪府枚方市招提田近1-9

TEL: 072-867-1686, FAX 072-867-1658

E-mail: [contact\\_zajosei@hmc.hosokawa.com](mailto:contact_zajosei@hmc.hosokawa.com)

URL: <http://www.kona.or.jp>

## 編集後記

### Editorial Note

本年5月、30年間余り続いた平成に続く新しい令和の時代が始まりました。一つの印象深い出来事は、本年10月に旭化成株式会社の吉野彰名誉フェローがリチウムイオン二次電池の発明でノーベル化学賞を受賞されたことです。その世界で初めての商品化は平成3(1991)年であり、ほぼ平成の時代に進化し実用化が進み、今や携帯電話やパソコンから自動車、そして大型蓄電装置まで、この二次電池から大きな恩恵を受けています。

一方、本年も10月の台風19号を始め、「これまでに経験したことのない」という言葉が頻繁に使われるような暴風雨や洪水の被害が相次ぎました。広汎に水没している地域や、今世紀最大といわれる災害廃棄物の映像をテレビで見ると被害された方々の思いが伝わってくる感じがします。今年の夏の暑さも尋常ではありませんでした。地球の温暖化等により世界が変わってきていることを実感します。

この問題の解決手法の一つとして上記の二次電池の役割が大きい訳ですが、様々な電池に使われている電極、電解質材料の高機能化に粉体技術が大いに役立っており、さらに進化し貢献していくことが望まれています。

さて本号は、本年10月に開催されました第53回粉体工学に関する講演討論会と昨年8月に開催されました第25回ホソカワ粉体工学シンポジウム等の講演内容をそれぞれ特集記事ならびに解説記事として掲載しています。この講演討論会を主催しているホソカワ粉体工学振興財団では、一昨年より、広く世界より KONA 賞候補者の推薦を受けることになり、2018年度は英国リーズ大学ガディーリー教授が受賞されました。その講演資料を京都大学教授松坂先生に翻訳して頂いた記事を本誌に掲載しています。

本誌につきまして、ご意見、ご要望等がございましたら、何なりと事務局までご連絡頂ければ幸いです。よろしくお願い致します。